汚水処理施設の最適化と広域連携の推進に向けた検討会
第４回　議事要旨

日 時 ： 令和8年10月16日（金） 14:00～16:00
場 所 ： TKP 東京駅カンファレンスセンター 1B（web 併用）

要 旨

1．開会挨拶

＜近畿大学　浦上拓也委員長より挨拶＞

地震、豪雨等の災害が頻発している状況で、水道や下水道をはじめとした、我々の生活に最重要なインフラについて社会的な関心が非常に高まっている。その中で、本検討会では、広域連携と汚水処理施設の最適化について議論しており、年末での公表に向け、今の時点でできうる限りの内容としてまとめ上げ、その後のさらなる内容の充実につながるようにしたい。皆様のお知恵をお借りして良いものを作り上げていきたいので、有意義な議論になるようご協力をお願いする。

2．議事

（１）　汚水処理施設の最適化について

（２）　広域連携の推進について

（３）　その他

●<u>汚水処理施設の最適化について</u>

- 既整備区域の浄化槽転換について、自治体によっては下水道の撤去が負担となる場合がある。撤去だけでなく残置も含む選択肢があるということがわかるようになるとよい。
- 既整備区域の見直しについて、下水道管の撤去は、残置物の扱いや雨水処理等の面で重要な事柄であり、（未整備区域と単に同じ扱いではなく）再整備という観点からも記載するとよい。
- 既整備区域における浄化槽転換を検討する具体的なタイミング、きっかけを示すとよい。
- 浄化槽転換の検討では、転換によって回避される費用面の比較のみならず、転換後に残る必要費用とそれが財政運営にどうつながるかが重要であるということを示すとよい。
- 浄化槽転換について具体的な判断指標の数字が示されることについて、指標の数字（130 万円/人等）は、その根拠を明確に示すことで、時間や自治体の実状によっては変わる旨も示すとよい。
- 下水道と浄化槽の狭間で農業集落排水の扱いがわかりにくく、ガイドラインを使う側が混乱しないように、もう少し工夫をするとよい。
-

<u>広域連携について</u>

- 都道府県をまたぐ広域連携の場合に、どこが主導するのか等を盛り込んでほしい。
- 連携協力下水道制度において代行側が管理瑕疵のリスクを負うという前提については、理解はするが、強調しすぎると尻込みしてハードルが上がるので、記載を工夫するとよい。
- 広域連携を検討する上で、（枠組みや手続きなどの）技術的な観点だけでなく、料金の設定の仕方をどのようにするかなど経営的な観点からの支援、補完内容があるとありがたい。
-

<u>全般について</u>

- 最適化と広域連携について、（どちらを先に取り組むかというよりは）相互に影響し合うものなので、簡単でいいので相互の関係をチェックするということを示すとよい。
- ガイドラインのボリュームは少なくし、参照する人がスタートラインに立てると思えるものにしてほしいし、後に事例集も示すなど充実を図ればよい。

事務局から今後のスケジュール

- 第5回は 11/20 に開催。必要に応じて第6回を行い、年内にガイドラインを公表する。

委員長まとめ

広域連携及び汚水処理施設の最適化に関して、素案の作成に向けて貴重なご意見を頂いた。次回の検討会では、素案に対して有意義な議論ができるようご協力いただきたい。